

火山と人々の生活 (地理歴史科・地理総合)

2022年度の1年地理総合では、単元の一つとして日本の火山とその周辺での人々の生活について学びました。その中で「火山の周辺に人は住んでいるのだろうか」、「なぜ危険もある火山周辺に人が住んでいるのだろうか」という2つの問いについて考えた授業を紹介します。今年度の1年生から1人1台端末が導入されたため、リアルタイムで大勢と情報を共有できる環境を活用し思考を深めていました。

1つ目の問いに対しては「Google Earth」と「Jamboard」を使用し、グループごとに桜島を観測して得られた情報を共有して問いについて考察しました。そこから得られた情報をもとに、2つ目の問いに対して「Google Forms」を使用し、なぜ危険だと理解しながらも火山周辺で暮らす人々がいるのか考察しました。

以下の画像は授業中に生徒が実際に作成した成果物です。意見をまとめる過程の中で、新たに疑問に感じたことを自分で問いとして立てて、授業後教員に質問したり、自分なりに調べたりする生徒も見受けられました。

【Jamboard から抜粋】

桜島周辺に人は住んでいる？
(根拠を集めてみよう)



保育園
がある

小学校
がある

中学校
がある

住居が売ら
れているか
ら人はいる

家
がある

住宅街
がある

海の近
くに家
がある

何箇所にも
避難空港が
ある

避難港
がある

養殖場
がある

市役所
がある

海岸らへ
んに家
がある

【Google Forms から抜粋】

- ・火山からの被害もあるけど、何より恩恵が多い。温泉や地熱、特産品なども火山からの恩恵から来ている。そのため住む人が多い。100年前の大噴火でも避難した人たちは落ち着いたら桜島に戻っている。
- ・危険だがその分災害対策も整っているし、温泉があったり、自然も豊かで観光地にもなるから。
- ・地熱などで温泉など観光資源ができる。ミカンなど作物が育てやすい。
- ・風向的に基本的に火山灰が届かない場所に住んでいるからなのか？
- ・火山のもたらす恵みがあるから。日常的に噴火が起きてるから危険ということが忘れられているのか？
- ・湧出する温泉、再生可能エネルギーとしての地熱、観光地になる、火山灰や風化した溶岩を元とする肥沃な土壌、マグマの作用によって鉱床が形成される場所もあるかもしれない。